

令和3年9月 牧之原市議会定例会 行政報告

令和3年市議会9月定例会の開会にあたり、当面する市政の重要な課題につきまして、報告いたします。

最初に、「新型コロナウイルス感染症」についてであります。

感染力が極めて強いデルタ株のまん延により、ワクチン接種が終わっていない若年層を中心に、感染拡大が続いております。

8月18日からは、川根本町を除く県内全市町が「まん延防止等重点措置」の適用地域となり、8月20日から9月12日までは、当県を含む13都府県に対して「緊急事態宣言」が発令され、現在、21都道府県が「緊急事態宣言」の対象区域となっております。

県内の感染者は、8月31日現在、21,868人で、県が8月27日に公表した直近1週間当たりの新規感染者は、人口10万人当たり104.4人、警戒レベル6の嚴重警戒を引き続き継続しており、全ての都道府県との不要不急の移動、往来の自粛など、感染の爆発的増加を抑える行動を呼び掛けております。

市内の感染者は、8月31日現在255名で、そのうち、病院入院の方が1名、宿泊療養の方が2名、自宅療養または入院等調整中の方が159名、退院をされている方などが93名となっております。

自宅療養者に対しては、血中の酸素飽和度が測定できるパルスオキシメーターを市で貸し出し、自宅療養者の健康状態や体調急変を早期に把握することで、重症化を未然に防止してまいります。

現在、家族間での感染などにより、子どもの感染が急増しておりますので、家庭内での感染防止に係るルールを周知し、心配な症状がある場合は検査を行うことを徹底してまいります。

小中学校、幼稚園、保育園には、市で抗原検査の簡易キットを購入し、何らかの症状があり、感染が気になる子どもや保護者などの検査を行う体制を強化します。

8月下旬から、国、県で同様の検査キットが配布されておりますが、市でも併せて購入し、十分な数量を確保してまいります。

保育園、幼稚園において児童及び職員に陽性が確認された場合は、濃厚接触者などのPCR検査結果が判明し、園内での感染拡大の恐れが解消されるまでは、臨時休園といたします。現在、市内の保育園において、複数の職員や園児の感染が確認されたため、その園につきましては、当面の間休園としております。

小中学校につきましては、全校 8 月 29 日まで夏休みを延長しましたが、クラスターが発生した保育園と同じ学区の小学校は、延長期間を 8 月 31 日までといたしました。

今後、校内で感染者や濃厚接触者が判明した場合、または、校内に感染拡大の可能性がある場合においては、学年、学級単位、場合によっては学校単位で、躊躇なく閉鎖若しくは臨時休校の措置を行うことといたします。

また、休校などの措置がとられた時などにおいても、学びの機会を確保するため、一人一台端末の持ち帰りによるオンライン学習を実施いたします。

感染者が出た場合に、保健所が濃厚接触者や感染経路を調べる「積極的疫学調査」を円滑に進め、その後の行政検査に迅速に移行するため、保健師の保健所への派遣協力を行っております。

また、行政検査の対象にならない接触者などへの PCR 検査の実施を、榛原医師会及び中部衛生検査センターに委託し、検査の対象者を広げることで、クラスター発生を防止してまいります。

新型コロナワクチンの接種状況につきましては、高齢者接種が 7 月末までに希望する方の接種を終了し、8 月 29 日現在、2 回目接種者数は 13,096 人、接種率は 93.81 パーセントで、当初の計画を上回る接種率となっております。

高齢者を含む一般接種につきましては、8 月 29 日現在、2 回目接種者数は 16,100 人、接種率は 35.29 パーセントとなっております。8 月 16 日から 64 歳以下の接種を開始するとともに、職域接種も進んでおります。

千葉県において、感染した妊婦が早産し、新生児が死亡するという痛ましい事故が起きたことを受け、妊婦とその配偶者やパートナーに対する優先接種枠を設けました。また、家庭内感染によって、子どもの感染が急増しているため、今年度に高校や大学などの受験を控える中学 3 年生と高校 3 年生に対しても優先接種枠を設けました。両枠とも 8 月 29 日から接種を開始しております。

高校生以下の子どもを持つ世帯の保護者につきましては、明日から優先接種の受付を開始いたします。

爆発的な感染拡大を収束させるためには、ワクチンの早期接種が必要であるため、11 月末までに希望者全員のワクチン接種が完了できるよう、全力で取り組んでまいります。

緊急事態宣言などの適用により、飲食店、大規模集客施設に対し、営業時間の短縮などが要請されております。

国からは、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の事業者支援分が新たに交付される見込みのため、当交付金を財源に、感染拡大の影響を受けている事業者に対する支援や、感染症対策の強化に関連する事業を実施してまいります。

次に「他地域で起きた事故や災害を考慮した安全対策」についてであります。

千葉県八街市(やちまたし)において、下校中の児童にトラックが突っ込み、児童5人が死傷した事故を受け、国土交通省、文部科学省、警察庁は、通学路の総点検を、県を通じて各自治体に指示しております。

当市といたしましては、7月5日から関係団体や地域と連携した通学路点検を開始し、今月10日までに、市内12の小中学校の通学路点検を終える予定であります。

未来ある子どもたちが安全で安心して通学し、学べる環境を整えるため、点検結果を踏まえ、グリーンベルト、防護柵などの必要な対策を実施してまいります。

熱海市土石流災害を受け実施した盛土点検につきましては、市内の造成用地や残土処分場など、盛土によって開発している箇所のうち、山間地で15mを超える盛土7箇所を、7月末までに点検いたしました。

不適切な盛土が1箇所を確認されましたので、その対応については、顧問弁護士と相談のうえで、今後、静岡県と協議してまいります。この盛土箇所の周辺には人家はありませんが、主要な道路に面しておりますので、土石流災害により市民生活に影響が及ぶことがないように、早期の解決に努めてまいります。

国土交通省は、令和4年度当初予算において、大雨で崩れる恐れがある盛土の撤去費用に係る自治体への支援を、概算要求しておりますので、当件の対応に活用してまいります。また、静岡県による土砂採取等規制条例の見直しに合わせて、当市においても、必要な規制の強化に取り組んでまいります。

次に「東京2020オリンピック、沿岸部活性化」についてであります。

当市では、米国サーフィンチーム11名が、7月16日から4泊5日で、静波海岸と静波サーフスタジアムを利用し、事前合宿を行いました。

市役所榛原庁舎で開催した大会会場への出発式で、カリッサ・ムーア選手からは、「私たちは牧之原が大好きです。ビーチは美しく、皆さんとても優しかったです。牧之原に戻る日を楽しみにしています。」と日本語で感謝の言葉をいただきました。

大会では、このカリッサ・ムーア選手が見事金メダルを獲得され、当市としても最高の練習環境とおもてなしを提供できたと考えております。

また、カリッサ・ムーア選手の日本語での挨拶動画は、YouTubeで36万再生を超え、市の魅力の情報発信に大きく貢献いただきました。

海水浴場は、感染拡大に十分配慮をしつつ、7月16日から8月31日まで静波海

水浴場及びさがらサンビーチを開設する予定でありましたが、まん延防止等重点措置地域への適用や、緊急事態宣言の発令が決定したことから、8月17日に海水浴場運営委員会を開催し、8月18日から両海水浴場を閉鎖いたしました。

このような状況もあり、今年度の海水浴場への来訪者は、85,000人となりましたが、ホストタウン事業や今回の事前合宿による東京五輪レガシー、米国チームの練習場所となった静波サーフスタジアムが8月16日にグランドオープンしたことなど、沿岸部活性化に向けた好材料も揃ってきております。

静波サーフスタジアムの開業に伴い、当施設周辺への民間企業の進出や、観光交流が加速すると思われまますので、静波海岸周辺地域づくり構想に基づく計画的な誘導を、地域や関連する事業者と連携して進め、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた沿岸部活性化、地域経済の巻き返しを図ってまいります。

次に、「東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区の開発」についてであります。

牧之原市IC北側土地区画整理準備組合と協力し、土地区画整理事業の施行に係る土地所有者全員からの同意取得を進めております。

8月末時点において、約9割の土地所有者などから同意をいただいておりますので、全員から同意をいただいたうえで、土地区画整理組合の早期設立を目指し、準備組合と共に全力で取り組んでまいります。

また、付加価値の高い農業生産を行うための基盤整備と、住宅地確保などの都市的な土地利用の両立につきましても、市内の市街地周辺の高台や、相良牧之原インターチェンジ北側周辺などの適地に対して、地域の皆さんの意向を確認したうえで、計画的に開発を進めてまいります。

次に「スズキ相良工場の拡張」についてであります。

スズキ株式会社相良工場の拡張事業につきましても、今年度中の基本計画策定を目指し、開発に必要な調査などを進めており、今後、事業区域を明らかにし、対象となる地権者に対して説明会を開催してまいります。

地権者の皆さんに、事業の推進に係るご理解を得られるように進めてまいります。

次に「学校再編」についてであります。

学校再編計画の策定につきましても、今年度中の計画策定に向け、地域や未就学児の保護者、教職員などに対して、策定委員会から答申を受けた計画素案の内容や今後の進め方などについて、意見交換を行っております。

今後も、きめ細やかな情報提供に努めるとともに、いただいたご意見などを踏まえ、実効性の高い再編計画の策定を進めてまいります。

次に「相良地区防災拠点の整備状況」についてであります。

相良地区防災拠点構想に基づき、相良放射線防護施設及び防災広場の整備を進めており、造成工事は8月末で60パーセントの進捗率となっております。

相良放射線防護施設につきましては、7月21日に安全祈願祭を執り行い、令和4年3月の完成を目指し整備を進めております。

多目的体育館につきましては、9月10日に民間事業者からの事業提案を選定委員会で審査し、今定例会において、契約締結の議案を追加で上程させていただく予定です。

次に「デジタル化の推進」についてであります。

デジタル化推進基本計画に基づき、今月からパソコン上で人が行う単純作業を自動化するRPAツールを導入し、事務の効率化を図ってまいります。

また、紙の帳票を読み取り、データ化するAI-OCRや、音声データを文字に変換するAI議事録などにつきましては、来年度の運用開始を目指し、本市も参加する県内自治体のICT共同利用に向けた実証試験にて、効果などを検証してまいります。

このほか、スマートフォンを所有していない市民の皆さんを対象に、実際にスマートフォンに触れ、便利さを体験してもらうとともに、不安や抵抗感を取り除くことを目的とした「スマホ体験教室」の開催に向けて準備を進めております。

地区支援拠点のモデル地区としている地頭方地区と勝間田地区の地域支援員とも連携し、身近な行政手続きのサポートに加え、スマートフォンの操作支援などにも対応してまいります。

市長在任中につきましては、かつて経験のない感染症拡大の中ではありましたが、第2次総合計画に基づき、高台開発の推進、放射線防護施設の整備、図書交流館の整備、ウェーブプールの整備支援などの大型プロジェクトを、ほぼ予定どおり進めることができました。

残りの任期につきましても、魅力あるまちづくりと、直面する感染症の対応に、全力で取り組んでまいりますので、市議会の皆さま、市民の皆さまにも、更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、行政報告といたします。

令和3年9月1日

牧之原市長 杉本 基久雄